

ちょっと ブレイクしませんか?

タイタニック [1997年 米国]

第 15 回

イソップ寓話集に「船旅をする人々」という小話がある。

「人々が船に乗り込んで航海に出た。ところが、沖に出たところで大時化となり、船は今にも沈みそうになった。乗客の一人は着物を引き裂き、泣きわめきながら祖国の神々に呼びかけて、皆の命が救われたなら、感謝の供物を捧げると約束した。嵐が止み、風が戻ると、九死に一生を得たというので、彼らは祝宴を張り、踊ったり跳ねたりした。舵取りはしかし堅実な男であったので、彼らに対して言うには『皆の衆、われわれは、ひょっとしたらまた嵐になるかもしれぬ、というつもりで喜ばねばなりませんぞ』

15年前300億円の巨額な製作費用を投じて、世界中を席卷した映画「タイタニック」(1997年米国)はアカデミー賞11部門を受賞した。

1912年。英吉利のサウスampton港から処女航海に出ようとするタイタニック号に、賭けで勝って旅券を手に入れ三等客室に乗り込んだ青年ジャック(レオナルド・ディカプリオ)がいた。17歳のローズは上流階級の米国人、大資産家で婚約者のキャル、ローズの結婚を強引に決めた母親ルース、富豪夫人のモリーと一緒に一等船室に乗る。ローズがキャルとの婚約に疑問を抱き、船の舳先から飛び降りようとしたのを助けたのがジャックだった。ジャックはローズの家族から食事の招待を受け、上流階級の生活を垣間見る。同時に二人は激しい恋に落ちた。ローズの心が自分から離れたのを知ったキャル。深夜、船は氷山にぶつかって、浸水が始まり、沈没が確実となった。女と子供が優先してボートに乗せられるが、ローズは船底のジャック救出を優先し、結局ジャックや多くの乗客、乗員とともに最後まで船に取り残される。二人は船の残骸の木切れにつかまったまま冷たい海の中で救出を待つ。結局、上流階級の人々やお金持ちは助かったが、船長とタイタニックの設計者らは海の藻屑となった。

タイタニック沈没から80年以上経過したその時、老いたローズの心の中にいつまでもジャックの姿は残り、彼との結婚式の様子が胸に浮かんでいた。

3.11(2011年東日本大震災)発生1456hの2時間後に迫りくる巨大津波を避けるために沖に出た勇敢な漁師たちがいた。幸い船は無事だったが、東電福島第一原発溶融による放射能汚染で漁が出来なくなった。辛うじて命は助かってでも生存する基盤がないと、希望を保つことは難しい。2001年のえひめ丸事件では、乗務員の35人のうち取り残された教員5人、生徒4人が死亡して、救出されたうち9人がPTSDと診断された。

1,500人の収容能力を持つ豪華客船タイタニックには、社会の最下層から超上層まで皆乗っていた。映画「タイタニック」の見所は、美しい恋愛や叶わぬ愛ではなく、埋めがたい格差が生死の境になるという怖い現実だった。人生もしばしば航海に喩えられる。順風満帆であっても警戒心を忘れてはいけないし、難を逃れたからといって一安心という訳にはいかない。

精神科医・映画評論家

かゆ かわ ゆう へい
粥川 裕平

国立大学法人名古屋工業大学
大学院産業戦略工学専攻教授

